



新松江 キャンパス 図書館 誕生!!

2019年3月に新しく
松江キャンパス図書館が
オープンしました。

図書館に一步足を踏み入れると、木の良い香り、中に進んで行くと、まるで体育館のような高い天井、見上げる窓の向こうに広がる自然豊かな風景。新しい図書館は、とても居心地の良い空間です。図書館は、本を読んだり、本を借りたり、勉強したり、ディスプレイをしたりするだけの場所だと思いませんか？ 本学の図書館は、1人でゆっくり考え事をしたい時、ポロっとしたい時、何もすることがない時でも、そこにいられるだけで空間を楽しめる図書館です。秘密ですが、図書館内どこかに、隠し書齋もあります。もし、この部屋を見つけたことが出来れば、そこは、もうあなた専用の部屋……！



図書館棟

4年制大学となり、今までより広く明るい図書館棟が完成しました。

10万冊もの蔵書が揃っており、卒業生の皆さんもぜひご利用下さい。

※奥に電動集密書架 中四国地方ではじめてのタイプで蔵書の検索ができます。

※卒業生も借りることができます。一般の方は図書館での閲覧のみになります。

書架(寄贈)

図書館棟完成にあたり松苑会は入口の書架を寄贈させていただきました。



カメリアホール(卒業生会館)



竣工式テープカット 平成31年1月23日

教育後援会により建築され、大学へ寄贈になりました。
卒業生も利用できます。
玄関入口にカメリアの名にちなんで紅白の椿の鉢植えを
寄贈しました。



「カメリアホール」名称の由来

島根県立大学松江キャンパスの歴史は、昭和21年に設立された島根県立松江女子専門学校から始まります。昭和23年に前身の学舎が松江市内中原町に移設されたことから、在学する多くの女学生は松江城山西側濠沿いの「椿谷」の小道を日々の通学路とし、「椿(camellia)」を観ながら多感な青春時代を過ごしました。そして、「椿谷」への愛着から、「椿のはなに 夕日ははゆる 椿谷小道」の歌詞がある「この小道」(作詞:竹崎嘉徳初代学長)の愛唱歌が作られました。その後再び移転し、昭和63年まで過ごした乃木福富の校舎にも椿の木がありました。松江市の「市の花」でもある「椿」は、本学卒業生にとって思い出深い花であり、また、松江に位置するこの松江キャンパスにも相応しい花です。

「同窓会館」の命名にあたり、本学の歴史を鑑みて、「椿」の英名カタカナ表記「カメリア」を採用することとし、会館名を「カメリアホール」としました。70余年に亘り本学と共にあった愛着ある花の名を名称にできることはとても意義深く、喜ばしいことです。

オブジェ



玄関ホール正面の壁に松苑会会員の寄附によりオブジェを設置しました。

製作は松江キャンパス福井先生にお願いしました。

ホール 和室



卒業生の集まり等に
利用できます。